

市長	副市長	局長	次長	係長	係	記録

【所属名：ガス水道局下水道維持係】
【会議名：糸魚川浄化センター環境保全会議】

開示
一部開示 (理由:条例第 条第 号 該当)
不開示
時限不開示 (開示: 年 月 日)

会 議 録

作成日 平成 26 年 6 月 3 日

日	平成 26 年 5 月 28 日	時間	13 : 30 ~ 15 : 10	場所	糸魚川浄化センター-2階会議室
件名	協議事項				(公開)
	議事(1) 報告事項				(公開)
	その他				(公開)
出席者	【出席者】 11人 金子会長 見邊副会長 柳委員 岩崎(茂)委員 恩田委員 金子(榮)委員 比護委員 田澤委員 猪又委員 小柳委員 下越委員				
	【欠席者】 1人 岩崎(秀)委員				
	【事務局】 ガス水道局 小林局長 清水参事 丸山次長 樋口副参事 中村副参事 山岸主査 鍋島主査				
	傍聴者定員		人	傍聴者数	0 人

会議要旨

1 開 会 (13 : 30)
【事務局】 小林局長 進行
2 あいさつ
【委 員】 金子会長
3 議 事
(1) 報告事項
【事務局】 報告事項 について説明。
・ 報告事項 平成 25 年度水質及び公共水域水質調査等の報告について
・ 質疑
【委 員】 検査項目にある D O とは何の略か教えて下さい。
【事務局】 D O は溶存酸素の量になります。水の中に溶け込んでいる酸素量を表しており、通常きれいな水の場合でも、10位が飽和量になる。溶存酸素が少なければ、その場所の水が汚れているという事になる。
【委 員】 水車池からホテルハウスへ入る水の窒素量は下流に行くほど増えるのでしょうか。
【事務局】 水車池を出たところで、ろ過材を通して、アンモニア性窒素等の河川に出て悪い影響を与える窒素を、硝酸性窒素まで持っていく働きはしているが、ろ過池の下にある

堆積物や藻が生えてしまって、それが腐ってしまって窒素分が上がっているのではないかと見ている。

【委員】 公共用水域水質検査の田伏上流の大腸菌群数が他所に比べて、特徴的な数字が出ているが、どのように見ればよいでしょうか。

【事務局】 公共下水道に全部がつながっている訳ではないので、合併処理や単独の浄化槽から大腸菌をきれいに出来なかった物が入ったり、自然的な物も考えられる。他を見ても高い数値の所もある。

【委員】 報告事項 について説明。

・報告事項 平成 25 年度臭気調査(パトロール)の報告について

・質疑

【委員】 汚泥の搬出は週に何回か日が決まっているのか、その臭いと重なることはあるのか。

【事務局】 汚泥搬出は週 2 回から 3 回、いつというのは決まっていない。運転管理で貯まり具合を見て搬出する。月ごとの予定は立てるが、いつの何時と決めていない。管理業者にも言っているが、積込んで、すぐには出ないで、搬出室で活性炭を通して臭いを無くしてから、シャッターを開けるように言っている。再度徹底して、なるべく臭いを出ないようにする。また、暑い時期にはホッパーの中に汚泥を貯めておく事で、臭いが発生するので、そのような時は多少の薬剤を使って、臭いを抑えるようにしている。再度徹底していく。

【委員】 放流水自体の臭いを測定する方法はないか。

【事務局】 臭気調査の目的は、周辺に影響が出ているかが目的だが、当施設が他(河川水)に与える影響もあるので、海川との合流点を測定ポイントに加えるのも、一つの方法かと思う。

【委員】 接続数が増えることで、処理量も増えていると思うが、臭いとの関係はないか。

【事務局】 接続数は増えているが、人口の減少、節水型の機器の増加によって水を使わなくなっている事で、処理量は増えていない。処理量が増えた事によって、臭いに関係があるとは、思っていない。

【委員】 臭気調査データについて、過去のものとは対比できる様にしてほしい。

【委員】 地元としては、放流渠付近には家屋もないので、仕方のない事と思っている。

【委員】 処理水の臭いを場内で取る方法はないか。

【事務局】 放流口に余り落差がないので、水を叩いて臭いを飛ばすことは出来ない。機械的に処理をすると、料金にはね返るので、ほかに方法がないか、検討させてもらいたい。

【事務局】 報告事項 について説明。

・報告事項 平成 26 年度糸魚川浄化センター修繕工事について

・質疑

【委員】 浄化センターが出来て 20 年位経ってっているが、今年は工事費は多いのか。

【事務局】 今年は、大きな機器の修理を予定しているので、工事費が大きくなっている。修理する機器によって、金額は前後する。

【委員】 取替時期の臭気対策はどのように考えているか。

【事務局】 臭気に係わる機器の工事については、臭気の出るような、暑い時期を避けて、工期を設定する。また、運転に影響の無い様に、工夫をしながら、工事を行う。

【事務局】 報告事項 について説明。

・報告事項 平成 25 年度末糸魚川処理区内の水洗化率等について

・質疑なし

【事務局】 報告事項 について説明。

・報告事項 平成 26 年度浦本地区公共下水道整備計画について

・質疑なし

4 その他

【事務局】 ホタルの育成について

昨年 8 月以降、用水の余水を取り入れ、用水 100%(修景池)、放流水 100%(ホタル舎)、用水、放流水の混合部を作り観察をしている。水温について、用水部分について冬場に水温が 2 度位まで下がり、ホタルによい、季節を作ることが出来た。

昨年は 6 月中旬から観察を開始したが、今年度は 5 月 13 日から観察を始め、20 日、27 日と夜間観察を行った。27 日の観察で、用水部と用水、放流水の混合部で平家ホタル 1 頭づつを確認した。ホタル舎について、昨年まで、源氏ホタルの幼虫を入れてきたが、既に世代交代しているとの事で、今年は、幼虫を入れずに観察を行う。

余剰汚泥の減容について

昨年度 1 年間、1 系で余剰汚泥の減容実験を行った。水質に変化は無く、1 系のみで 35%の余剰汚泥の減容、施設全体で 8%の減容結果となった。脱水汚泥での減容率は 3%となった。今後、進め方について内部で協議をし、次回以降報告を行う。

放流水の残留塩素について

現在、ホタルの育成で、放流水への塩素を低めにしているが、大腸菌群数が高いと、環境に影響があることから、塩素臭の話もあるが、一般の処理場並の塩素使用量にする事もあるので、ご承知下さい。

5 閉会(15:10)

以上